

言葉と音のコミュニケーションによる「創作」の授業

音楽科 小川 美紀

1. 主題設定の理由

音楽科では、「知」を学力の基礎・基本と考えられる「知覚・感受したことをもとに、自ら課題を見つけ、創意工夫し、他者と関わりながら音楽で表現する力」と捉え、「自分の思いを表現しあう」ことを大切に、音楽表現を考える授業づくりをしている。本年度は「創作」分野で「自分の思いを表現しあう」音楽学習に取り組んだ。「創作」は生徒がイメージをもちながら、一から、音やリズムを操作し、つなげ、構成していく学習活動であるため、歌唱、器楽分野にも増して、思考力・判断力を育成するために有効な学習であると考え。詩から言葉の持つリズム、言葉の持つ背景からイメージを考え、音を探し、どのような表現ができるか、どのようにイメージを伝えるか、工夫し、話し合い、各自が創作した旋律を聴き合い、その特徴から、知覚・感受したことを根拠に他者と言葉によるコミュニケーションと音によるコミュニケーションを繰り返しながら、思考を深めることが音楽表現の創意工夫につながるのではないかと考える。知覚・感受したことを基に音楽表現を工夫する場面では同じ学習に向かって、互いの考えや思いを言葉で伝え合い、表現を理解し合う場面では、音や音楽に対する知覚・感受の深まりが不可欠と考える。知覚・感受させるために大切なことは、学習のあらゆる場面で、音や音楽と関わらせ、音や音楽で確かめることである。比較聴取の手法などを用いて両者の違いに気づかせる場面でも必ず、音を聴いて確かめながら知覚・感受したことを言葉で伝え合うように留意している。

「自分の思いを表現しあう」ことは互いに同一でない感性や価値観をもって、音や音楽、また言葉でやりとりすることで、様々な違いが焦点化される。そして、それぞれの感性や価値観を理解し、互いの思いを共有していく中で、表現の基となる自分のイメージや気持ち、表現に対する想いが明確になり、自分の中で意図が構成されていくと考える。

2. 実践の概要

1学期に身近な題材（自分で題材を選ぶ）からイメージしたことを5つの音（ドレミファソ）を使い、リズムを工夫して知覚・感受しながらメロディーで表現する学習に取り組んだ。その学習を発展させ、今回は言葉の特徴を生かし、詩からイメージしたことをメロディーで表現する際に、言葉のもつリズムを生かし、音のつなげ方を工夫して、言葉が自然に聞こえる旋律を作る学習に取り組ませることにした。基になる詩は共通のものを用いる。生徒は詩からイメージを想起することに加えて、詩に書かれた言葉のもつリズムを感じ取り、言葉のリズムが旋律の流れに生かされるよう創意工夫して旋律を作ることになる。また、同じ詩を用いても、それぞれ、イメージしたことに違いがあり、様々な旋律ができると推測される。

作品の完成度よりも言葉によるコミュニケーションと音によるコミュニケーションを行き来する学習の過程を重視し、音を音楽へと構成する楽しさや喜びを味わわせたい。

【実践事例】

題材 『まど・みちお詩集 いのちのうた』から「ごはんを もぐもぐ」

「指導事項」A「表現」(3)ア 言葉や音階などの特徴を生かし、表現を工夫し、旋律を作ること。

〔共通事項〕リズム 旋律

単元の目標

- ・言葉のもつリズムなどの特徴に関心を持ち、詩から想起したイメージや思いをメロディーで表現することに意欲的に取り組んでいる。
- ・言葉のもつリズムなどの特徴を生かしながら、詩から想起したイメージや思いをメロディーで表現するための工夫をしている。
- ・詩から想起したイメージや思いを、音で確かめながらメロディーで表現することができる。

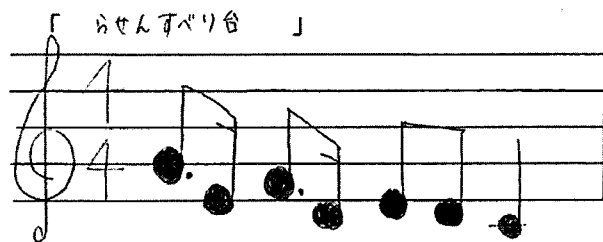
評価規準表

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
言葉のもつリズムなどの特徴に関心を持ち、詩から想起したイメージや思いをメロディーで表現することに意欲的に取り組んでいるか。	言葉のもつリズムなどの特徴を生かしながら、詩から想起したイメージや思いをメロディーで表現するための工夫をしているか。	詩から想起したイメージや思いを、音で確かめながらメロディーで表現することができるか。

学習の流れ

- ① 「創作」のはじめの学習として5つの音（ドレミファソ）を使い自分がイメージしたことを知覚・感受しながら、リズムを工夫してメロディーで表現する取り組みをした。（1学期）

生徒は音階にこだわることなく自由にリズムを作り、音を並べ、自分のイメージでメロディー表現をしていく。最後の音を終わる感じにしたり、イメージによっては続く感じにする作品もあった。



イメージしたこと

最初の2回は付点8分音符を使いケリケリ回る感じを出した。
最後はすべり終わる感じを出すためにゆっくりで終わる感じにしたい。

生徒作品

- ② 次に身近な言葉から言葉のもつリズムを考え、簡単なメロディーをつける。

た こ や き



ひ こ う き [ひこーき]



い け だ



上のリズム例をもとにその言葉からイメージしたことをメロディーで表現する。休符や付点音符、三連符を使ってリズムを工夫する生徒もいた。

(作品 A)

① リズムを考えよう

たこやき	ひこうき (ひこーき)	いけだ

② メロディーをつけよう

(作品 B)

① リズムを考えよう

たこやき	ひこうき (ひこーき)	いけだ

② メロディーをつけよう

ここでは、創作した曲をピアノで演奏し、皆で歌唱し、どのようなイメージがするか、感じとったことを意見交流する。感想から、「たこやき」では音が上がって高くなると(作品 A) 高級感があり、低い音で下行形だと、ジャンボサイズでどろっとしたソースがかかっているイメージがし、(作品 B) の「ひこうき」では三連符を使い、「ひこうき」の速さを表すなど、リズムや音の高さ、メロディーの流れから、様々なことに気づき、作った側は自分の思いと一致する意見もあれば、意外な意見もあり、新たな発見をすることができた。作ったリズム、メロディーから知覚・感受し、雰囲気が違うことに気づいていく。このような練習をし、次は感情、情景などがイメージできる言葉で旋律を作る。

- ③ 「ありがとう」と言う言葉からその言葉のもつリズム、その言葉をどんな時に使うか、言葉から感じることを、言葉の背景にあるもの考え、イメージしたことを簡単なメロディーで表現する。
「ありがとう」と言う時、言われる時の場面を考え、イメージをもつ。

＜生徒の意見から＞

- ・ 消しゴムを拾ってもらった時
- ・ プレゼントをもらった時
- ・ 落ち込んでいた時に声をかけてもらった時
- ・ 卒業の時の感謝の言葉
- ・ 親への感謝(普段言えない思いを伝える)

それぞれの「ありがとう」と言う時、声の出し方、表現の違いがあることを確認する。
言葉のもつリズムなどの特徴を考えメロディーで表現していく。

「ありがとう」という言葉の背景を考え、気持ちが高まった時は高音、励ましてもらった時は低音など気持ちを音の高さなどを意識して考えるようになる。 (生徒のワークシートから)

リズム

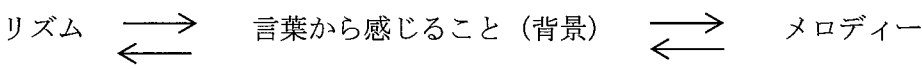
イメージ
解り易いリズムで、自分自身を表現している。ありがとうの時は、解り易いリズムで、自分自身を表現している。ありがとうの時は、解り易いリズムで、自分自身を表現している。

メロディーの説明
解り易いリズムで、自分自身を表現している。ありがとうの時は、解り易いリズムで、自分自身を表現している。ありがとうの時は、解り易いリズムで、自分自身を表現している。

リズム

イメージ
年上の人に向けて感謝を伝える。ありがとうより「ありがとう」のイメージ、自分の身のまわり、周りの感謝の気持ち。

メロディーの説明
1学期で音のイメージ学習したときに、存在感があり、元気で明るいイメージがあった「たこやき」と、年上の人に向けてありがとうなので、上品のイメージがあった「れ」を組み合わせてメロディーをつくり、オーフンという感じ。



リズムを考える、言葉から感じること（言葉の背景）、メロディーで表現することを行き来させることを繰り返し、思考を深めていく。

④ 身近な言葉から詩を読みイメージしたことをメロディーで表現する。

題材とした詩の、言葉のもつリズムなどの特徴を知覚し、詩から思い浮かべた情景やイメージしたことが表現できる旋律を作る。

○ 詩を読み、詩から思い浮かべた情景やイメージしたことをワークシートに書く。

文章が全部ひらがなでかわいらしい言葉が使われているというところから、幼い子ども（幼稚園児ぐらい）が一生懸命ごはんを食べたり、今日あったことを楽しそうに話をしていること、「もぐもぐもぐ」「ぺらぺらぺら」と3回言葉が続くことで夢中になっている様子が浮かび、子どもの無邪気さ、純粋さをイメージしていた。また、自分たちが幼稚園の頃の記憶から、「もぐもぐもぐ」は昼ごはんを食べて、早く遊びたい気持ちや、お母さんや幼稚園の先生から「しっかりごはんを食べてね。」と言われ、がんばって食べた記憶があるからこの詩でもそういう気持ちが表れているように感じ、「ぺらぺらぺら」は幼稚園であった出来事をお母さん、友達に話すのがうれしくてしゃべりたいという思いがあってしゃべり続ける様子など、生徒は自分の経験とかかわらせてイメージしている。ほとんどの生徒は幼い子どもをイメージしたが、全部ひらがなで書かれているので、外国人が書いたと考え、日本人なら「もぐもぐ」の2回ではないかという意見もあった。

<生徒のワークシート>

2年 音楽 「創作」 ～詩からイメージしたことをメロディーで表現しよう～

詩から思い浮かべた情景やイメージしたこと

幼稚園に通いだした頃の小さい子が、楽しくごはんを食べられるようにリズムのよい詩が考えられたのだと思う。小さい子向けの、スペースでお弁当を食べながら、友達と仲良くお話をしている様子がイメージできる。また、あまり難しい言葉は使わず「もぐもぐ」「ぺらぺらぺら」など、頭に身振りやすい言葉を使っていることから、楽しんでいる子供に向けたということがわかる。

全部ひらがな → 小さい子が主人公、友達も楽しんでいる！
かわいらしい子供
明るい
ほほえましい
わくわく

『ごはんを もぐもぐ』

ごはんを もぐもぐもぐ

くちから たべた

おはなし ぺらぺらぺら

くちから でてきた

幼稚園の出来事を話している

楽しい

リズム

難しい言葉は使わず、頭に残りやすい言葉で表現 = 小さい子供向き

イメージから表現したいこと

楽しいごはんを食べている様子を表現したいので、明るい曲調でリズムのよい歌にしたい。主人公である小さい子供の「むじみささ」やほほえましい様子など、子供らしさが全面に出るようにしたい。また、子供が、頑張っている様子も表現するためにあまり急がず、落ち着いたテンポにしたい。

なぜ？
『ごはんを もぐもぐ』
全部ひらがな
主人公 小さい子供
楽しんでいる

イメージしたことから言葉のリズムを生かしたメロディーを考えよう！

○ イメージしたことをグループで共有し、創意工夫して言葉のリズムを生かした旋律を考える。次のことを学習しながら、旋律を考えていく。

1. 言葉のアクセントについて。
2. 言葉のリズムを考える。
3. 即興演奏（遊びの中から考える。）

1. 言葉のアクセントについて

発音する時、「橋（はし）」と「箸（はし）」や「雨（あめ）」と「飴（あめ）」では、アクセント（日本語では、高低の違いによるアクセント、英語では強弱の違いによるアクセントがある）が異なる。このようにことばはそれぞれアクセントをもっている。



曲で比較する。多くの作曲家は言葉のアクセントをもとに、旋律を作っているが、現代の曲ではそのようになっていないものが多い。アクセントに基づいて作られた山田耕筰の「赤とんぼ」とそうでない絢香の「にじいろ」で比較する。

<生徒の感想>

「赤とんぼ」	「にじいろ」
<ul style="list-style-type: none"> ◇ 言葉がそのまま生きていて美しい。 ◇ すごく心に残る。歌詞を思い出して、すぐに曲のメロディーを思い出することができる。 ◇ 一つ一つの音をはっきりと聞こえる。なつかしく聞こえて、昔っぽい感じがする。歌詞から考えると、情景が夕方なので、一日の終わりをイメージさせられる。歌詞が先に頭に入ってきて、それからメロディーが入ってくる。 ◇ 一つ一つの単語がとてもはっきり聞こえる。音がとりやすい。日本語らしい。 ◇ 音の高低が言葉のアクセントと同じようになっていて、歌いやすかった。音がどこらへんで高くなるかというのを、なんとなく想像できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 言葉のアクセントが変化しているが、言葉はわかる。一つ一つの言葉より全体のイメージを優先にしている。 ◇ メロディー重視でそれに歌詞をのつけた感じ。別世界にいるような感じ。 ◇ 音はずんでいるように聞こえる。現代的な感じで気軽に口ずさめる。歌詞よりも先に、特徴的なメロディーが入ってきて、それから歌詞が頭に浮かんでくる。聞いていて歌う人の「らしさ」がよく表れていると思う。 ◇ 想像の世界が広がる感じがある。音がふくらんでいる。自由に音が並んでいるので、考え方も自由な感じ。表現も自由。歌う人の気持ちが伝わりやすい。

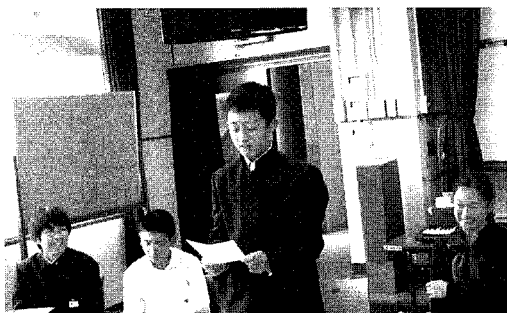
アクセントにそって作ると言葉がわかりやすく、作りやすいが、構成音がよく似た形になってしまったりする。また、アクセントを気にしない方がメロディーを考えやすいが情景が浮かびにくいのではないかなどそれぞれの長所、短所を感じ旋律を作る参考にしてグループで話し合っていく。

2. 言葉のリズムについては学習の流れ②の振り返りをしながらリズムを考えていく。

3. 即興演奏は生徒の興味・関心・意欲をさらに高めるために、楽譜を書くことから離れ、遊びの中でメロディーを即興的に作り、音楽を構成する基礎的な能力を育てる。

最初は教師がリーダーとなりランダムに当てていく。はじめは緊張するが、生徒は直感的、感覚的に

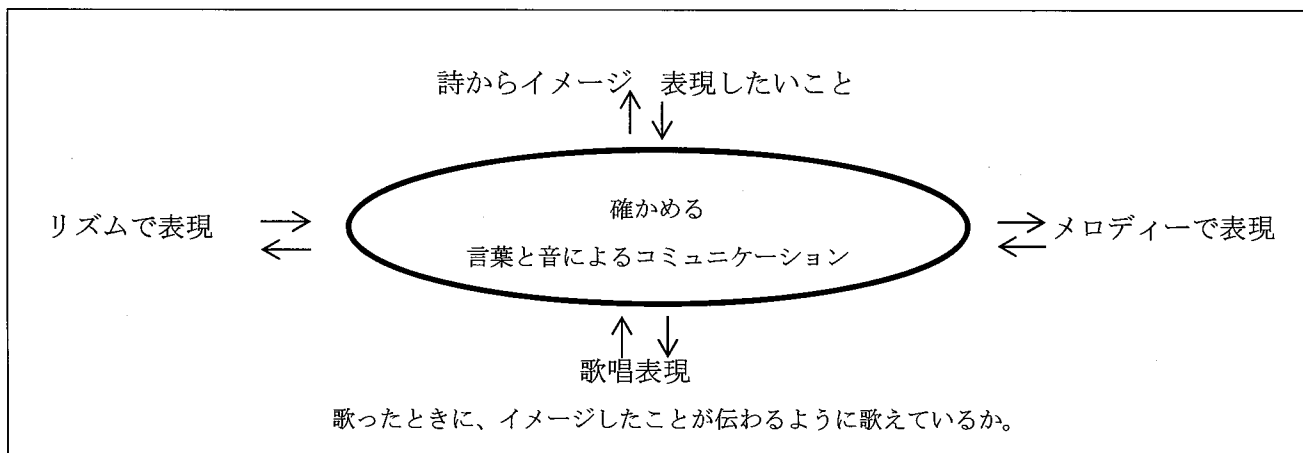
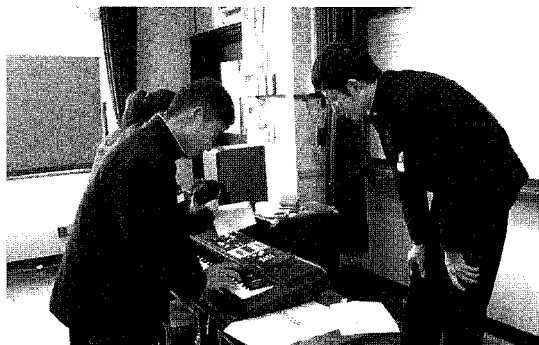
音のつながりを考え自由に歌ってメロディーで表現をする。リーダーを教師から生徒に代え、自分たちで音楽を構成していく。難しいが楽しい場面でもある。



(即興演奏の様子)

- | | | |
|--------|------|--------|
| (リーダー) | ごはんを | もぐもぐもぐ |
| (A) | くちから | たべた |
| (B) | おはなし | べらべらべら |
| (C) | くちから | でてきた |

(グループ活動) 言葉と音によるコミュニケーション



(旋律を五線に書く)

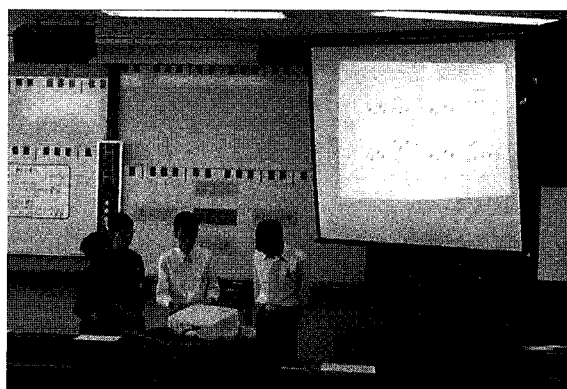
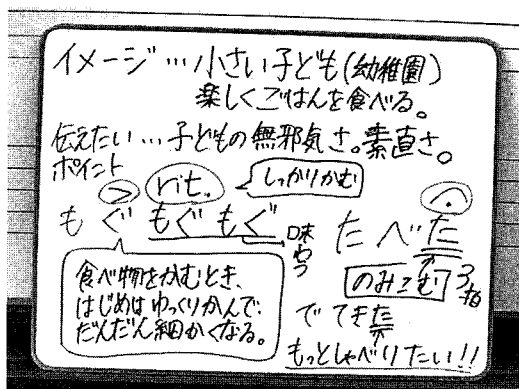


詩からイメージしたことが、言葉の特徴を生かして、メロディーで表現されるように歌って確かめながら工夫をする。自分たちが表現したい音楽に近づいているか何度も確認し合う。(上の図のように行き来させながら考える) 何度も確認し、他者と関わることで、いろんな視点から見た意見が集まり、思考も深まり、よりよい作品が生まれてきたのではない。ただ、意見をまとめるのに時間がかかるという課題もあるのは確かである。

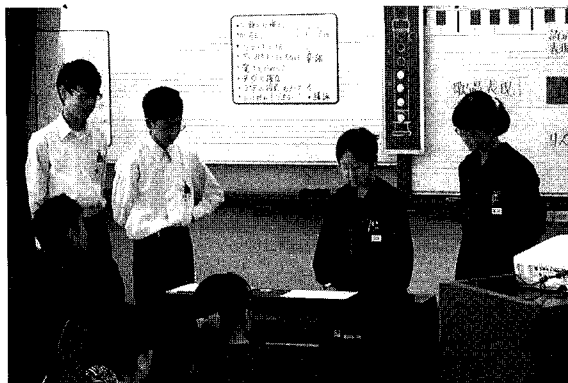
(発表) 自分たちの思いを発表し合う

①ボードにイメージしたこと、伝えたいことを書く。

②言葉で説明する。



③電子ピアノで演奏する。



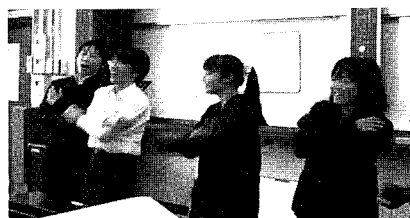
④歌って表現する。



(作品について) [作品①]

②イメージしたことを、メロディーで表現しよう♪

8小節で曲を作りませう。
拍子を決め、メロディーで表現する♪



(十六分音符)

[作品①]は、この詩から幼い感じがし、音もドミソを使うことで単純にし、幼さを出し、1段目、2段目の2小節目の「もぐもぐもぐ」と「ぺらぺらぺら」の口の動きから十六分音符を使いアップテンポにすることで、ごはんを早く食べて遊びたい気持ちや、一生懸命話す様子を表現し、「たべた」では食べ物が口に入る感じ(お腹に入っていく)を下行形にし、「でてきた」では、音を上げていくことで、口から言葉が出る感じを表現している。また、その部分にわかりやすくジェスチャーをつけることで、歌詞に広がりを持たせている。

[作品②]

②イメージしたことを、メロディーで表現しよう♪

8小節で曲を作りませう。
拍子を決め、メロディーで表現する♪

[作品②]は1段目は幼稚園に入る前、2段目は幼稚園に入園と成長の過程を表現した作品となっている。特に、最後の高さの違う同じ音で締めくくられているのが印象に残る作品である。高音のドは良いこと、低音のドは悪いことで、良いことも悪いことも考え始めたことを表現している。

〔作品③〕

〔作品③〕は曲の始まりが八分休符で始まっており、休符を多く使う1段目と使わない2段目の表現の違いがおもしろい作品である。始まりの休符は、ごはんをつまらせている様子を表し、2段目の休符がないのは、話をやめることなく一生懸命「おはなし」したい気持ちを表している。

♪イメージしたことを、メロディーで表現しよう♪

8小節で曲を作りませ、拍子を決め、メロディーで表現する♪

〔作品④〕

♪イメージしたことを、メロディーで表現しよう♪

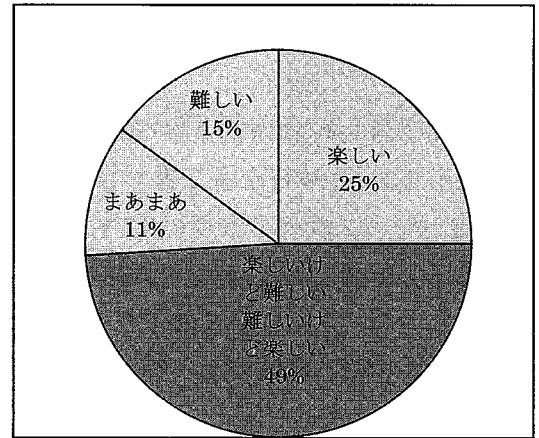
8小節で曲を作りませ、拍子を決め、メロディーで表現する♪

付点と十六分音符を使うことで楽しいイメージに。

ほとんどのグループは拍子が四分の四拍子で作っていたが〔作品④〕はテンポよくリズムにのり身体を揺らす感じを表現するために四分の三拍子で作られている。1段目と2段目の1.2小節は同じ音が使われて変化はないが、2段目の2小節目のリズムに付点をつけることで、楽しく話している様子を表し、同じ音を使ってもリズムが少し変わると雰囲気が変わり、話をしている楽しさが伝わる。

他に、「べらべらべら」としゃべり過ぎるので曲の途中で短調に転調し、お母さんに怒られる様子をメロディーで表現したり、ハ長調だけではなく、ト長調やキーボードでイメージに近いメロディーを考えていくうちに黒鍵の多いロ長調を使ったり音階や音に対しての関心が高いことも感じられる。また、音を構成してだけでなく、感情表現をするために、アーティキュレーションや速度などを考え、音楽記号がある時と無い時の比較をし、自分たちのイメージに近づけていくグループもあった。発表後は感想や質問などを出し合い意見交流をし、いろいろな意見や他のグループの作品から同じ詩でもイメージの持ち方で様々なリズムや旋律ができ雰囲気の違いに気づき、「創作」の楽しさを味わうことができたのではないかと思います。

「創作」の授業後のアンケートからアンケートから、「楽しい」が25%、「楽しいけど難しい・難しいけど楽しい」が49%と約70%の生徒が楽しく感じる事ができた。「まあまあ」や「難しい」という生徒の感想の中にも楽しいと感じる場面はあり、何が難しいのかというと、イメージやリズム、メロディーを考え、グループで話し合ったり、歌唱したりすることは楽しかったが、五線上に拍子を考え音符を書くことが、音楽が苦手な生徒にとってはその部分は難しく感じたようである。



【生徒の感想】

<楽しかったと感じたこと>

- ・ 詩から何もリズムもメロディーもない状態から自分が感じるままに作れるのが良かった。
- ・ みんなで意見を出し合い、音やリズムを考えていくのがとても楽しかったから。1学期に一人で考えた時より、他の人から良い意見が出たりして、良いものが作れたので楽しかった。
- ・ 自分達だけの歌が作れることが楽しかった。協力しているとたくさん討論ができて、意見から良いものが選ばれて、とても良いものができた。
- ・ 同じ歌詞をそれぞれの班がメロディーをつけて、オリジナルの曲を作っていくのが楽しかった。出来上がった曲を、自分たちの歌声に表現していくのが一番がんばったところなので、とても楽しめたし、もっとやりたいと思った。
- ・ 頭の中で浮かんだ意見をみんなに伝えて、それぞれの意見を見て合体させたり、そこからまた、みんなで考えるということがとても楽しかった。また、リズムにぴったりの音を見つけた時の1回1回の達成感がすごくて、それをみんなで歌うことはもっと楽しかった。
- ・ ピアノで適当に弾いてみたらこれまでに自分でも見つけられなかった新しいリズムを見つける発見があったりしたこと。
- ・ 自分が作曲家になったような感じがし、自分達の好きなようにメロディーを変化させるのが新鮮だった。『決まったメロディーにそって歌う』というのとは別の「音楽」の楽しみがあるのだと改めて感じたから。
- ・ メロディーやリズムをちょっと変えるだけで、曲の雰囲気が全然違うものになり、新たな発見が次々と出てきた。グループで話し合いながら試行錯誤しながら、というところも一人でもくもくとするより楽しかった。

<難しいと感じたこと>

- ・ 何もないところから新しいものをつくること。
- ・ イメージを音にするのが難しかった。
- ・ 頭の中で思い浮かんだメロディーを音符にすること
- ・ メロディーとか音の高低、上下によって場面を表現すること
- ・ 自分が感じたことを伝えようと思っても、どんなリズム、どんなメロディーにしたらよく伝わるのかと考えながら作ること。
- ・ 拍数の数を数えたり、楽譜を書くことが大変でした。
- ・ 1学期は5音で創作をしたが、2学期は音の幅も広がり、詩のイメージから、リズム、メロディーを考えていくという楽しみが大きくなった分、難しさを感じた。

<どの時点で楽しかったか>

- ・ みんなで意見を共有する時。
- ・ 一人の時よりもグループ活動になった時、イメージがたくさんあって、違いがあったり同じ風に考えていたりしていたことが楽しい。
- ・ 音に触れているのは楽しかった。拍子や音階を考え、音符を書くのは難しい。
- ・ 曲ができあがってキーボードで弾いて歌った時が楽しい。
- ・ 自分達の作った曲を発表し、感想を言ってもらえたとき楽しかった。
- ・ 1学期は自分でリズムを考えて音にしていだけでしたが、2学期では詩の意味から考えて主人公・情景をもとに音をつけていったので、内容がとても深く、一つの曲を作り上げていくことが楽しかった。
- ・ 音を作るのも楽しかったけど、同じ詩、言葉でも似たようなものがあっても同じものがなく、個性がでてたり、イメージがそれぞれ違ったりしたものを聴くのが楽しかった。
- ・ イメージに合う音を見つけたとき。
- ・ 「ありがとう」にリズム、メロディーをつけるのは楽しかった。全員の「ありがとう」を聴いたとき。同じことばで違うリズム、音になっていてきれいだった。
- ・ 即興で歌ったのが面白かった。
- ・ 単語に音をつけるだけでなく、歌にすることでストーリーができて楽しかった。8小節の歌になったので考える部分が長くなったのが難しかった。
- ・ 楽譜に考えたことを書いていき、できたときは楽しかった。

<成果と課題>

1学期から2学期と段階をふんで、「創作」の授業を行ってきた。1学期は歌詞がなく、身近な題材（自分で考えた風景など）からイメージし、5つの音を使って、リズムと旋律を作った。2学期はもともとある「言葉」、「詩」から、言葉のもつリズム、言葉からイメージする旋律を作り、生徒は同じ「言葉」、「詩」でもイメージしたことに違いがあり、雰囲気の違い曲できることを学習することができた。取り組む形も個人からグループ（4人）で考えるようにし、音楽経験の少ない生徒にとって考えたリズムを口で言うことは出来ても記譜をすることは難しく、個人で考えるとなかなか思うようにいかないことも、グループで取り組むと、そのようなことが解消され、アイデアを出しそれを聞き、譜面にする生徒がおり、自分の思いを言いやすく協力して活動ができたのではないかと。また、グループで話し合うことで、様々な意見が出て、個人で取り組んだ時よりも思考が深まり、イメージを膨らませることができ、音楽表現の創意工夫につながり良い作品になったのではないかと。（良い作品とは、完成度の高いものをいうのではない）この授業での楽しめるところは、曲作りも興味が持てるが、曲が出来上がって来て、グループで歌唱することも楽しく、曲が出来た時の達成感もあり、生徒にとっても授業者にとっても楽しい場面であった。課題としては、生徒の感想にもあるように、楽譜を書くことである。曲作りの合間に即興演奏を取り入れ、遊ぶ場面を作り、楽譜から解放させることによって、学習に対する意欲を高めさせることができる。即興的な活動は、基礎的・基本的な知識や能力を定着させることができるので、記譜をする力が身につくと考えられる。ただし、繰り返し行うことが大切である。「創作」活動は他の歌唱や器楽にも増して思考力・判断力を育成するために有効な学習であるし、つながる学習であると考えられる。「作っておしまい」「楽しかった」で終わらず、学力の定着を図る必要がある。どのような授業展開、活動を行うことが効果的かさらに研究開発しなければならない。